



フードバンク関西ニュース

2011年5月28日第21号

フードバンク関西は食品関連企業から余剰食品を

受け取り、支援を必要とする人達を支える非営利団体にそれらが無償提供する活動をしています。

2011年5月28日発行
認定NPO法人フードバンク関西
事務所 芦屋市呉川町1-15
Tel/Fax 0797-34-8330
E-mail foodbank05@yahoo.co.jp

東日本大震災被災者支援の取り組み

2011年3月11日東日本大震災が発生しました。その直後大津波が同地域沿岸を襲い、私達の想像を絶する被害をもたらしました。震災に遭われた皆様へ、フードバンク関西ボランティア同、心よりお見舞いを申し上げます。関西地域に暮らす私達は1995年阪神淡路大震災を体験しました。でも今回の震災ははるかに大規模で深刻であり、加えて福島原発事故はいまだに終えんせず、生活の基盤すべてを失われた方々にどんなご支援ができるのか、被災者の皆様のご心労、ご苦勞にどのように心を合わせられるのかと思い悩みます。フードバンク関西は、かねてより自然災害時こそフードバンクのネットワークがその力を発するべきと考えており、全国にあるフードバンクがネットワークを活かして迅速な対応をするべく活動を開始しました。震災後、直ちに東京のセカンドハーベストジャパンが救援物資を届けるための4トントラックを定常的に被災地に向けて出す態勢を整え、仙台のフードバンクであるアサイン東北と協働して避難所等への救援物資の分配を始めました。他のフードバンクは東京都のセカンドハーベストジャパン事務所まで食料品等を配送すれば、被災地へ分配できる体制が出来ました。フードバンク関西は、直接私達が被災地に救援物資を届ける事と、セカンドハーベストジャパンに託する方法を使い分けながら、今日までに6回にわたり救援物資支援を続けています。今後も救援活動が必要になるまで継続する事を決めました。ホームページに掲載した直後から、救援物資の募集と送料寄附のお願いに多数の方々から直ちに反応いただき、フードバンク関西の定常的な活動と並行して救援活動できました。皆様からのご支援に心より御礼申し上げます。その経過報告をします。



3月11日、東日本大震災発生

3月14日 ホームページに救援物資募集、送料寄附のお願いを掲載。

3月19日 第1便 セカンドハーベストジャパン経由で救援物資を被災地に届けるべく、理事長藤田の運転により2トン車で救援物資を配送。中島大祥堂の菓子181ケース、ウーケのパックご飯等を搬送。

4月8日 第2便、福島県のうつくしまNPOネットワークいわき基地に向け、理事長藤田とボランティア松尾の2人で4トントラックを運転し救援物資の配送。この時までには事務所に集まった救援物資を中心に、米2トン、缶詰、飲料、菓子、粉ミルク、マスク、消毒アルコール、生活用品、発電機2基を搬入。

4月19日 第3便、セカンドハーベストジャパン経由で米2トンを被災地に搬送。

4月28日 第4便、セカンドハーベストジャパン経由で米3トン、缶詰類、マスクを被災地に搬送。

5月13日 第5便、理事長藤田の運転で、4トントラックに、米1トン強、ハイツ日本のアップルジュース(1.3トン)、菓子類、レトルトカレー、野菜ジュース等、救援物資を積んでうつくしまNPOネットワークいわき基地に向け搬送。別便で宮城県内の小規模避難所2ヶ所に救援物資を配送。

5月20日 第6便 オレンジジュース(2.3ト)包丁6百丁をうつくしまNPOネットワークいわき基地に発送。

第2便で理事長藤田と交代で4トントラックを運転したボランティア松尾さんの報告です。

【救援物資第二便報告】

松尾粒一

東日本大震災による被災地にフードバンク関西として出来ることを行動にうつすことは本当に大切なことだと感じます。

今回被災地への支援物資は、私達のホームページや3月29日の朝日新聞、3月30日の神戸新聞の当法人の被災地支援活動を紹介する記事を見て一般の方がフードバンク関西の事務所にお届け下さった食品、常日頃から食品をご提供下さっている企業の皆様からのまとまった量の食品、浄土宗滋賀教区や尼崎のお寺の檀家の皆様からのお米と食品の数々です。様々な人の温かい気持ちが詰まった品々を、応援と



いわき市でのトラックからの荷降ろし

励ましの思いと共に私達が皆さんに代わって届けてきました。兵庫県では過去に阪神淡路大震災を経験し、他地域の方々から心温まる多くの支援を受け、思いやりや助け合いの心、人のつながりの大切さを肌で感じてきました。その恩返しとも言えるべき活動はごく自然なことです。ただ、神戸と福島は片道約900kmの距離。何をやるにしても時間とお金が必要です。一人の力には限りがありますが、事務局及びボランティアの呼びかけにたくさんの方が応えて下さった力によって運搬費用と多数の物資が集まり



うつくしまNPOネットワークいわき基地事務所

り救援活動が実現している事は、日頃の地道な活動の力を改めて感じる機会にもなりました。さて今回お届けした福島県いわき市は、お届けする前夜に震度6程度の余震を観測し、さらに終日雨が降り、あまり条件が良くない日の移動となりました。芦屋の事務所を朝11時頃出発し、藤田理事長と交代で運転して、いわき市に到着したのは夜10時ごろ。4t車を駐車できる食事処が無いことから、コンビニの駐車場に停めて弁当や飲み物を買って車中での夕食&仮眠。朝3時半ごろ起きて、

福島

の沿岸

部の町や津波被害の大きかった小名浜を視察しました。現地の惨状を目の当たりにしていろいろと感じる事が多かったのですが、今回は支援物資を無事に届け、帰阪することをミッションと割り切り行動しました。神戸から来たことに対し現地の方々には、今まで支援物資を直接届けに来た最長距離の届け物と一緒に驚かれ、ねぎらいと感謝の言葉をいただきました。朝9時より「うつくしまNPOネットワークいわき基地」で、物資の荷降ろしを行い、10人強の現地のボランティアさんが黙々と荷受けをして下さったので1時間程度で終了。このうつくしまNPOネットワーク



いわき基地に各地から届いた救援物資

ワークは行政機関ではなく、その名の通りNPOやボランティア団体が連携しながら活動しており地元の青年会議所の方も参加していました。この基地は、工業団地の一角の印刷会社倉庫を借り受け活動拠点として使用しており、大きな倉庫に多くの物資がストックされていたことには正直少し驚きました。ここを拠点に、他の2ヶ所の基地やネットワークによる情報を元に、福島だけではなく、宮城県などの避難所等にも必要な物を届けているそうです。荷下ろし終了後、藤田理事長が現地責任者鈴木さんとの挨拶及び今後の連携についての話し合いを30分程度行い、私達はいわき市を後にしました。移動距離にして約1800km、運転時間約24時間、

一泊（車中）二日のトラック運送の旅でしたが、多少の疲れはあるものの、それより貴重な経験をしたと感じています。今後も刻々と変わっていく被災地の復旧状況に合わせてフードバンク関西としてできる事を続けることにより、少しでも復興の一助になればと心より願うばかりです。

今後の救援活動の経過や、皆様にご支援をいただきたい物資等の情報は、フードバンク関西のホームページに逐次掲載していきます。被災地の一日も早い復興と生活の再建を願って、皆さんと一緒に応援し続けたいと願っています。変わらぬご支援をお願い致します。

第1回フードバンクネットワーク全国会議が開催されました。

昨年10月、全国各地域のフードバンク11団体が東京に集まり、共通のガイドラインに調印し、ネットワーク構築の第一歩を踏み出しました。その第1回目のフードバンクネットワーク全国会議が2月19日、20日の2日間、芦屋の木口記念館にて開催され、フードバンクだいち(青森)、ふうどばんく東北 AGAIN(仙台)、セカンドハーベスト・ジャパン(東京)、フードバンク山梨、フードバンクいしかわ(金沢)、セカンドハーベスト名古屋、フードバンク広島から14名の方々が集まり、フードバンク関西から13名が出席しました。



会議に先立ち、フードバンク関西事務所の見学会を開催し、食料の保管状況やスケジュール化された配送状況などについて見て頂きました。19日午後1時からの本会議は藤田理事長の開会あいさつから始まり、2日間にわたって熱のこもった討論が行われました。最初、各フードバンクから現状報告を含めてネットワークへの期待について報告がなされました。各団体はそれぞれの地域に根ざした独自の活動を行っていますが、地域の枠を超えたネットワーク化により各団体が色々な情報やノウハウなどを共有化することができ、食品提供を受ける企業や行政との交渉もしやすくなるなどの大きな効果が期待できることを確認しました。次に、セカンドハーベスト・ジャパンからフードバンクだけでなく食品企業、福祉施設、行政、物流企業、資金スポンサー、労働者福祉協議会、消費者などを含めた幅広いネットワーク組織を構築する事が提案され、ネットワークの機能、役割、組織、新規フードバンクの参加基準などについて討論が行われました。農林水産省では食品ロス対策としてフードバンク活動を有効に活用しようと考えており、フードバンク活動が社会システムの一環として機能することを推進しています。安定的な組織の確立、人材の確保と育成、資金の確保、食品の適切な管理などのフードバンクの課題を解決するための研修や学習会に補助金を交付するなどしています。この会議の中でもネットワーク組織の構築が重要課題であることが確認されました。最後に、フードバンクの取り組み事例としてセカンドハーベストジャパンから母子生活支援施設支援の例とフードバンク山梨からフードバンクを知ってもらうためのオリジナル絵本などの紹介がありました。地域や経験の異なる団体が一堂に会して情報交換することは今後のフードバンク活動の発展に大いに寄与することでしょう。次回は7月にフードバンク広島で開催することになり、ネットワークの組織について討議すると同時に、業務書類作成や食品管理などの実際的な情報交換も行う予定です。(井上)

フードバンクネットワークのガイドラインを承認しネットワークに参加しているク団体を紹介します。

フードバンクだいち(青森県)	ふうどばんく東北 AGAIN(宮城県)	セカンドハーベストジャパン(東京都)
フードバンク山梨(山梨県)	フードバンクとやま(富山県)	フードバンクいしかわ(石川県)
セカンドハーベスト名古屋(愛知県)	フードバンク関西(兵庫県)	フードバンク広島(広島県)
フードバンク九州(福岡県)	セカンドハーベスト沖縄(沖縄県)	現在11団体

フードバンク関西ボランティア対象の食品を安全に取り扱うための学習会実施

農林水産省から補助金を得て、フードバンク関西は平成22年度の大きな行事として、食品安全取り扱いに関する専門家である食品安全ネットワークの角野久史氏と奥野貢司氏をフードバンク関西に講師として招き、全ボランティアを対象として全体会2回、常駐スタッフ対象の学習会を6回にわたり行いました。初回の全体会では、角野先生から食品衛生の基礎知識としてマスコミで報道された食中毒事件を例に挙げて食中毒の原因を知り、その原因となる微生物の発育条件から分かる温度管理の重要性、賞味期限、消費期限の違い、を学びました。続いて行われた6回の常駐スタッフ対象の学習会では、食品を扱う事務所の活動の土台として5Sの確立（整理、整頓、清掃、清潔、躰）と食品を取り扱う業者で遵守されなくてはならない7S（整理、整頓、清掃、洗浄、殺菌、躰、清潔）について、確立前・後の企業の事業所内部の写真の比較等を見ながら、理解を深めました。企業の完璧に整理整頓された素晴らしい事業所内部の写真を見た後、フードバンク関西事務所の雑然とした現状写真を比較提示された時、これではいけないとスタッフ一同、改善の必要を自覚しました。このスタッフ学習会では、日常私達がデリバリー作業で行っている作業内容を点検し、直すべき点、温度管理の見直し、夏季の食品搬送時の冷蔵品、冷凍品の取り扱いのルール確立、作業工程管理表を作成しました。また食品の安全な取り扱いを記録に残す必要性を学び、それらをデリバリー記録、受領書に反映できるよう、これら諸表を改訂しました。最終回は2月26日、全ボランティア対象の全体会をもち、スタッフ対象の学習会での作業工程管理表に基づく食品の取り扱い、デリバリー記録、受領書の改訂の意図、3月からの実践等をボランティアの皆さんに理解を深めて協力を求めました。3月以降、フードバンク関西から食品のデリバリーを受けている団体の皆様には、デリバリー記録や受領書に受取り食品の品質確認をしてから受領サインをいただくようになりました。最近の夏の暑さは大変厳しくなっているので、冷蔵品、冷凍品のデリバリー時にはプロ仕様の保冷ボックスを使用しています。事務所に食品の引き取りに来られる受取り団体の皆様には、今後、事務所への食品引き取りの際、保冷ボックスのご持参をお願いします。（浅葉）

編集後記

3月の東日本大震災発生以来、いつもの余剰食品の回収と福祉団体への分配作業と並行して、被災地への救援物資の募集、仕分け作業が入り、3月中旬から2カ月余り大変忙しい日々が続きました。この救援活動の様子が朝日、神戸、読売、大阪日日、日本経済新聞に掲載され、救援物資や配送料寄附が近畿圏内からだけでなく全国から集まるようになりました。個人からの救援物資を受け入れる自治体がほとんどなかったので、一般の方からの救援物資がフードバンク関西の事務所に集中したかのように感じました。事務所では送られてきた食品や物資をボランティアが検品、記録しながら品目別に分け、被災地へ送る物資は同一品目ごとに箱に入れ、箱の外に内容物、個数、重さも明記し、発送の際はリストを作り添付しました。配送料のカンパにもたくさんの方が応じてくださり、第6便までの配送料はおかげさまでこのカンパで賄う事が出来ました。お菓子箱やお米の袋に励ましのメッセージが添えられているものもあり、皆様の被災地への熱い思いがよく伝わってきました。それを被災地の方々に一日も早くお伝えできればと思いつつ、作業に当たりました。これからは、被災地のニーズが刻々と変化するので、必要とされる救援物資は何かというマッチングの難しさが出てきます。息の長い救援活動となるよう、何が私達にできるのかを考えていきたいと思えます。（事務局）

もったいないのおすそわけ

認定特定非営利活動法人フードバンク関西

事務所 〒659-0051 芦屋市呉川町1-15 TEL0797-34-8330

e-mail foodbank05@yahoo.co.jp URL <http://foodbankkansai.web.infoseek.co.jp>

寄附のご送金方法 郵便振替口座 00940-4-221867 口座名義 特定非営利活動法人フードバンク関西